

# Kyorin Eye Center Newsletter

vol. 42  
Fall  
2013

〒181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2 杏林アイセンター Tel: 0422-47-5511 (ext. 2606) Fax: 0422-46-9309

|                               |       |                           |     |
|-------------------------------|-------|---------------------------|-----|
| ◆講師就任のご挨拶(厚東隆志) ……………         | <1>   | ◆杏林アイセンターの Visitors …………… | <4> |
| ◆VR 班の臨床活動(國田大輔) ……………        | <2-3> | ◆輸入角膜による角膜移植 ……………        | <4> |
| ◆オープンカンファの報告 窪田良先生(井上真) …………… | <3>   | ◆イベント情報 ……………             | <4> |
| ◆フォトアルバム：山田昌和先生祝賀会 ……………      | <3>   | ◆編集部からのコメント ……………         | <4> |

＜執筆者：括弧に明記 production：岡田アナベルあやめ、堀江大介、仲寫みずき＞

## 講師就任のご挨拶(厚東隆志)



厚東 隆志

本年4月より杏林大学医学部眼科学教室講師を拝命いたしました厚東(こうとう)と申します。着任より半年が過ぎ、新天地での環境にも慣れてきました。温かく受け入れて頂き、諸先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。

私は平成13年に慶應義塾大学医学部を卒業、同眼科学教室に入

局しました。平成15年に大学院に進学、最初の2年間は病理学教室共同研究員として、その後の2年間は現北海道大学・石田晋教授の研究室の立ち上げに参加し基礎研究に従事しました。東京都済生会中央病院への出向を経て慶大眼科に帰室、以後硝子体班の一員として網膜硝子体手術の研鑽を積んで参りました。この度平形教授、井上准教授よりお誘い頂き、杏林アイセンターという新天地へやってきました。

少し思い出話をさせていただきますと、私の入局当時慶應硝子体班のチーフが井上先生で、手術室はもちろん学会発表や論文作成でお世話になったり、また仕事が終わってからはフレマナー一同を食事に連れて行って下さったりと、公私ともにかわいがって頂きました。その背中に憧れ、1年目の秋には網膜硝子体手術をやりたいと早々決めたものです。当時の杏林アイセンターは樋田教授という大教授のもとに平形教授を擁し、井上先生もフェローとして腕を磨いた、「網膜硝子体の総本山」とでも言うべきあこがれの場所でした。それから12年の

時を経て、自分がその一員となった巡り合わせに縁を感じております。

私の専門は網膜硝子体外科で、三度の飯の次くらいに手術が好きで人間です。硝子体手術は疾患を問わず何でも手を出しますが、慶應に角膜疾患が多かったこともあり、角膜混濁を伴った硝子体手術の経験は比較的多く経験していると自負しております。難治ではありますが、通常であればインオペとなるような症例でも何とか治療の土俵に乗せられるようにしたいと思います。最重症例では角膜移植との同時手術を要することもあり、山田教授率いる角膜グループとの連携をいっそう強化する必要を感じております。

私の医師としてのあり方として、生涯術者であること、生涯教育者であることを目指しています。若輩の身で講師の大任を仰せつかり、自分自身の果たすべき、また求められている役割がまだ十分に見えておらず模索しているところですが、先の目標は私に期待されている役割と少なからず重なるのではないかと考えています。杏林アイセンターに集まる数多くの症例を執刀し、それらの症例を通して後輩の先生達に手術手技をはじめとする様々な経験を伝えていきたいと思ひます。

実力も経験もまだまだ浅い非才の身ではありますが、精一杯杏林アイセンターの発展に尽力する所存です。諸先生方には今後ともますますのご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

### 略歴

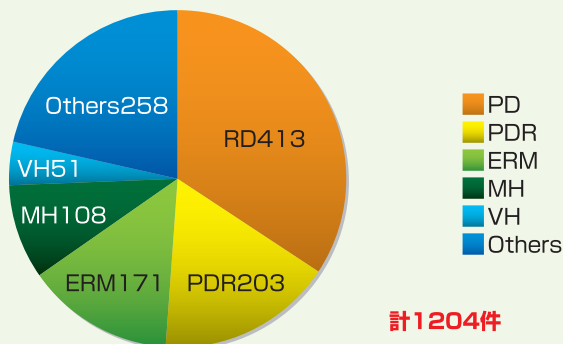
平成13年 慶應義塾大学医学部卒、同眼科研修医  
平成15年 慶應義塾大学大学院医学研究科外科系眼科学  
平成19年 東京都済生会中央病院眼科医員  
平成20年 慶應義塾大学医学部眼科学教室助教  
平成25年 杏林アイセンター講師

## VR班の臨床活動（國田大輔）

今年度、VR班は平形明人教授、井上真准教授、廣田和成医師、伊東裕二医師、折原唯史医師、横田怜二医師、國田の昨年からのメンバーに加え、4月から慶應義塾大学より厚東隆志先生を講師として招聘し総勢8名でスタートしました。7月から伊東裕二先生がClevelandのCole Eye Instituteへ留学したため、現在は7名となっています。お互い良い刺激を受けながら成長を目指す毎日です。フェローは網膜硝子体手術の習熟が大きな目標ですが、岡田アナベルあやめ教授の黄斑外来のサポート、未熟児診療、FAカンファレンス担当、外傷などの救急対応、研修医の教育指導などを担当し、サージカルレチナ以外の分野も勉強しながら、故樋田哲夫名誉教授のチームの一員として他施設に誇れる眼科外科医を目指しています。

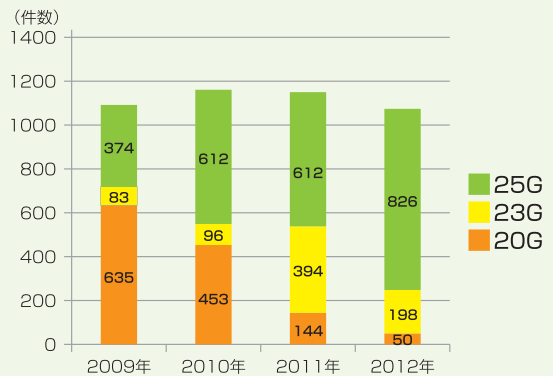
硝子体手術件数は、ここ数年1200件程度となっています。そのうち、緊急手術は4割強を占めています。疾患の内訳に大きな変動はありませんが、やはり網膜剥離の多さが当科の特徴です（図1）。多摩地区だけでな

図1 当院における2012年度の網膜硝子体手術件数



く都内全域や他県からも来院され、1日で網膜剥離の患者様が5人以上来院される日も珍しくありません。緊急入院も当然多く、慢性のベッド不足、病室の確保が最大の問題となっています。他科の病室を借りることもしばしばですが、網膜剥離の多くは早急に手術を行わないと術後視力に影響を及ぼすため、できるだけ早めに入院手術できるように尽力しています。予定手術が可能な一部の網膜硝子体手術は、井上准教授を中心に外来日帰り手術で行っています。術後に体位制限が必要な黄斑円孔手術であっても、自宅でうつ伏せ姿勢をとってもらい、入院手術と同等の術後成績が得られています（宮澤顕子ら、眼科2010）。術眼の対側眼の視力が良好で術後管理が正確に行えることが条件となりますが、介護家族がいるなどで自宅を離れられない方でも手術が行えるようなメリットも明らかになり、症例数は増加し2012年は222件が日帰り手術となっています。

図2 当院での硝子体手術における使用ゲージ数の推移



連日予定手術以外にも緊急手術を行っていますが、手術室スタッフの協力もあり、予定手術（通常、午前午後各2件）のあとに1件はそのまま受け入れて頂いています。もちろん通常の稼働時間をオーバーしている状態であり、手術部の理解あってのことです。もちろん、遅い時間であれば手術室の空き待ちということもあります。土日祝日も問わず手術を行っており、まさに年中無休の手術体制となっています。

硝子体手術システムとして、2011年よりアルコン社のコンステレーションを導入しています。ゲージは20、23、25、27の全てを用意しており、ReSight、BIOMなどのwide viewing systemやシャンデリア用光源も各種揃えて、難治症例に対応できるようにしています。術者、症例によって使用ゲージは多少異なりますが、手術装置、周辺器具の進歩により、安全かつ低侵襲の手術が可能になり徐々に25Gの比率が増えてきています（図2）。

本年8月に、網膜静脈閉塞症に対しても抗VEGF（血管内皮増殖因子）療法が認可になりました。今までは同様の治療はアバスタチンで行っていましたが、未認可剤であるため患者さんに不安を与えていた可能性もありました。保険適応になったため積極的に導入しています。網膜静脈分枝閉塞症は自然経過も良好である場合も少



VR班グループと窪田先生

なくありませんが、黄斑浮腫を併発している場合には抗 VEGF 療法は即効性もあり早期に治療を行っています。欠点としては加齢黄斑変性と同様に薬剤費の負担が多くなりますが、維持期においてはステロイド療法の移行や併用に期待しています。

未熟児診療も VR 班が担当するようになり約 3 年が経過し、当初は多彩な病態や不良な診察条件に難渋していましたが、経験を重ねることで現在はすべてのメンバーがある程度の診察が可能となっています。もちろん深刻な病状を呈する患児も見受けられ、重症例は平形教授、井上准教授の指導のもとに網膜光凝固治療を検討しています。

人数が増えますと、なかなか全体での意見交換も困

難となってしまいます。このため、月に1回の VR 班ミーティングを行うように努めています。内容は、研究の進捗状況、治療に苦慮している症例、再手術症例の検討などです。異なる環境で VR を担当してきた人が多いため、道具の使い方 1 つ取り上げても各々異なる考えを持っており、大変勉強になります。教科書的な知識だけでなく、経験上得られる知識というのは非常に有用であると再認識しています。

連日の緊急手術に追われてしまう生活ですが、全員が少しずつでも成長できるよう、そして良い治療成績が残せるよう VR 班一同努力していく所存です。今後とも宜しくお願い申し上げます。

## オープンカンファの報告 窪田良先生（井上真）



「米国における薬剤開発とベンチャー企業の役割」について米国アキュセラ社 CEO である窪田良先生にご講演頂きました。探索研究で生まれる化合物の中で臨床応用されるのは 1 万分の 1 以下といわれる中で、窪田先生らが開発されたエミクススタト塩酸塩は視覚サイクルの活動を調節することで有害物質の過剰蓄積を抑制し、萎縮型加齢黄斑変性症に対する内服治療薬として期待されています。窪田先生はワシントン大学に留学中の 2002 年に自宅の地下室で起業されました。失明する患者を少しでも救いたいという熱い信念を語って頂きました。

## フォトアルバム 山田昌和先生の教授就任祝賀会



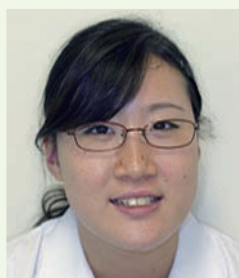
## 杏林アイセンターのVisitors



Shaheeda Mohamed

My observership at Kyorin University Hospital Eye Center for two weeks was wonderful. Under Professor Hirakata's great leadership, Kyorin Eye Center has become a leading center in Japan and internationally. I learnt a lot under the brilliant teaching of Professor A Hirakata, Professor A Okada, Associate Professor M Inoue and the entire vitreoretinal team. I was able to observe the latest advances in surgical techniques, medical retina, and participated in the Advanced Vitreous Surgery course in Tokyo. I have deep respect and admiration for the surgical skills, discipline and diligence of the doctors. I will share the insights I gained in Japanese ophthalmology with my team at Hong Kong Eye Hospital, and hope to have more collaborations between our centers in future.

(Associate Consultant, Hong Kong Eye Hospital.)



寺中 茉有

ケンブリッジ大学での2年目を無事終え、昨年に続き夏休みを利用して今年も2週間の見学をさせていただきました。医者という職業について、眼科について、日本の医療について、幅広い分野について大変勉強になりました。根気強く説明して下さったアイセンターの皆様には感謝申し上げます。皆様方には大変お世話になりました、ありがとうございました。

## 輸入角膜による角膜移植

10月から米国アイバンクからの輸入角膜を用いた移植手術が可能になりました。患者さんの費用負担はすべて保険範囲内(国内ドナーと同じ)であり、待機期間の短縮や緊急症例への対応に役立てていきたいと考えています。角膜内皮移植を含め適応症例がありましたらご紹介くださいますようお願いいたします。

## イベント情報

### <OPEN CONFERENCE>

2013年11月5日(水) 18:30 ~ 杏林大学病院外来棟10階第2会議室  
「角膜混濁症例の硝子体手術」 厚東 隆志 先生 (杏林大学医学部眼科 講師)

2014年2月5日(水) 18:30 ~ 杏林大学病院外来棟10階第2会議室  
「黄斑疾患に対するドラッグデリバリーシステム」 本田 美樹 先生 (順天堂大学浦安病院眼科 准教授)  
「緑内障の新たな薬物治療と手術治療」 木村 至 先生 (順天堂大学浦安病院眼科 准教授)

### <6th Eye Center Summit>

2014年5月31日(土) 17:30 ~ 20:00 目黒雅叙園(開催場所にご注意ください)  
会費2,000円(日本眼科学会認定専門医2単位)  
「眼底自発蛍光関連テーマ(仮)」 近藤 峰生 先生 (三重大学大学院医学系研究科眼科学 教授)  
「緑内障関連テーマ(仮)」 白土 城照 先生 (四谷しらと眼科 院長)

## 編集部からのコメント

網膜剥離がこんなにあるのかというほど多いアイセンターに、笑顔が似合う元気のいい厚東講師が赴任されました。生涯教育者を目標とする姿勢は、お互いが学び教え合うVR班や若手を活気づけています。また、伊東先生夫妻のCleveland留学、利井先生の台湾との交流、海外からの見学者も年々増え、海外便りが楽しみになっています。10月から医局やカンファレンス室なども新しくなります。変化しているアイセンターをどうぞよろしくお願いいたします。(AH)